

皇后盃第35回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会

京都府が全国優勝



雪の中を力走する又村選手(京都新聞社提供)

1月15日、京都市で皇后盃第35回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会が行われ、立命館宇治高等学校2年の又村菜月選手と西内彩恵選手が、京都代表としてチームの優勝に貢献しました。

又村選手は起伏のある第5区約4kmを走り、西内選手はサブメンパーとして応援やサポートで選手らを支えました。雪が吹き荒れる悪条件の中、6位でたすきを受けた又村選手は「雪で前が見えませんが、少しでも前へという気持ちで走りました」と、力強い走りでも実際に順位を上げていきました。コース途中では、沿道からの同校陸上部の仲間たちの声援も力に変え、都大路を走り抜き、4位でたすきをつなぎました。

西内彩恵 選手(男山第三中学校出身)

来年こそ走って、連覇貢献

八幡市から代表2人



メダルをかけ笑顔の又村選手(右)と西内選手

又村菜月 選手(男山東中学校出身) 吹雪に苦戦も気持ちで前へ

大会を終え、又村選手は「一昨年は代表に選ばれながら走れず、チームも僅差で2位になり悔しかったので、優勝できてすごくうれしいです」と、ほっとした様子。西内選手は「強い選手を間近で見ることができて、すごく良い経験になりました。来年は自分も走って、連覇に貢献したいです」と、次大会へ向けた抱負を語ってくれました。

筆先に心を込めて

第20回松花堂新春書初め席書大会

「寛永の三筆」の一人とされる松花堂昭乗ゆかりの松花堂庭園・美術館で1月22日、第20回松花堂新春書初め席書大会が開催され、幼児から高校生までの86人が心を込めて半紙に筆を運びました。同大会は、文字を大切に、書により親しみを持ってもらおうと、松花堂庭園・美術館と市が共催しており、文化協会書道部会の協力で毎年行われています。参加者は「日本の春」や「わか草」など、学年ごとに設けら

れた課題に挑戦。書道部会会員から「曲がりやはねに気を付けて力強く書く」など、助言を受けながら、見本を参考にゆっくりと丁寧に書いていきました。その後、参加者は悩みながら選んだ一番良いと思う作品を親や会員に披露し、作品展へ出品しました。市内の書道教室に通う安友直陸君(9)は「初めて参加したけど、家で何枚も練習してきたから上手く書けた。来年も参加したい」と笑顔で話していました。



手本を見ながら課題に取り組み参加者

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介していきます。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

誓いの言葉を述べる簗一樹さん(左)と佐野奈津子さん



新成人 飛躍誓い 第一歩

新成人の門出を祝う「成人式」が1月9日、文化センター大ホールで行われ、振り袖や袴、スーツ姿の新成人447人(対象者653人)が出席し、成人としての第一歩を踏み出しました。同式典は、和太鼓サークル「どんど鼓」、「木月」の演奏で幕を開け、続いて堀口市長と小北市議会議長が新成人にお祝いの言葉を贈りました。新成人を代表して誓いの言葉を述べた簗一樹さんと佐野奈津子さんは、昨

年の参議院議員選挙で初めて投票を経験し、大人への仲間入りを実感したことについて触れ「未来を見据え、大人として課せられた責務を果たし、どんな人でも生きやすい社会の創造に貢献することを誓います」と、成人として歩んでいく決意を新たにしました。会場内では、久しぶりに再会した恩師やクラスメイトと写真を撮ったり、思い出を懐かしんだりする姿が見られました。

「もっといいまち」市長に提言

八幡市子ども会議

松花堂美術館で12月23日、よりよいまちを目指す「八幡市子ども会議」の委員が、取りまとめた意見を市長に提言しました。同会議は、立命館大学政策科学部稲葉ゼミと連携して毎年行われており、今年で13回目です。小中高生30人の委員は、4班に分かれ、昨年6月から7回にわたり班ごとに決めたテーマに沿って話し合いを進めてきました。中学生班は、梨を使ったカレーやドレ

市のPRを動画で 竹灯籠を流れ橋に 特産の梨を給食に



班で制作した市のPR動画に合わせて踊りを披露する小学生班

ッシングを考案。来年度より実施される中学校給食で実際に提供し、八幡の特産品の梨をたくさんの人に知ってもらいたいと市長に提言をしました。また、ほかの班は、市内の小中学生が作った竹灯籠を使ったイルミネーションを流れ橋で行い、まちの魅力を発信する案などを提言しました。男山第三中学校2年の國領美咲紀さん(14)は「たくさんアイデアが出て楽しく取り組みました。どの班の発表も共感するところが多く、また、市長に直接意見を聞いてもらえるので、すごく良い経験になりました」と話していました。